

令和4年度 千葉県学力向上推進会議

ちばっ子「学力向上」総合プラン
(ダブル・アクション+ONE)

評価表

千葉県教育庁教育振興部学習指導課

Action1 目指す姿

「自ら課題を持ち、多様な人々と協働し、粘り強くやりぬく子」

【評価項目】児童生徒の「学ぶ意欲の向上」

【評価の観点】ア 人的配置により学ぶ意欲の向上につながっているか

イ 教育環境の整備により学ぶ意欲の向上につながっているか

事業担当者による自己評価

ア 人的配置により学ぶ意欲の向上につながっているか

	2-1	3-1	3-2	3-3	4-2	視点ごとの評価	
	遣「千葉県の充実事業の充実にサポーター」派	「特別非常勤講師」の配置	専門学科を体験しよう	配「小学校専科非常勤講師」の配置	の外国語指導助手（ALT）等		
児童生徒	児童生徒は、自らの課題を明らかにして学習活動に取り組めたか	a	a		b		a
	児童生徒は、多様な価値観にふれたり、普段体験できない活動が行えたりしていたか		a	b		b	b
	児童生徒は、協力したり協働したりしながら学習する良さを実感できていたか						
	児童生徒は、活動の意味を理解し、最後までやろうとする意欲を持てたか					b	b
	児童生徒は、見通しを持って活動に取り組む、最後までやろうとする意欲を持てたか			b			b
	児童生徒は、主体的または計画的に学習に取り組めたか	a					a
	魅力的な学習活動であり、児童生徒が最後までやろうとする意欲を持てたか	a	a		a		a
県教委	児童生徒が自発的、計画的に学習に取り組むための支援ができたか						
	児童生徒が学ぶことが楽しいと思える教育活動を支援できたか						
	児童生徒が学ぼうと意欲的になるための教育活動を支援できたか	a			a		a
	児童生徒が将来の夢や希望が持てる教育活動であったか						

※a：十分満足できる b：概ね満足できる c：不十分である

イ 教育環境の整備により学ぶ意欲の向上につながっているか

	1-1	1-2	1-3	4-1	5-1	5-2	5-3	6-1	視点ごとの評価	
	学校) ちばっ子 チャレンジ 100(小	校) ちばのやる 気学習ガイド (中学	活用促進 「家庭学習 のすすめ」 サイトの	用 ICT (学習支援 ソフト)の活	「SSH」の 活用	園「科学の 甲子園」「 科学の甲子 園ジュニア」 大会の開催	進学指導 重点校(高 校)におけ る教育活動 の充実と普 及	実 ICTを 活用した学 習指導の充		
児童生徒	児童生徒は、自らの課題を明らかにして学習活動に取り組めたか	b	b	a	c			a	b	b
	児童生徒は、多様な価値観にふれたり、普段体験できない活動が行えたりしていたか				c	a	b		c	b
	児童生徒は、協力したり協働したりしながら学習する良さを実感できていたか					a	b		b	b
	児童生徒は、活動の意味を理解し、最後までやろうとする意欲を持てたか									
	児童生徒は、見通しを持って活動に取り組み、最後までやろうとする意欲を持てたか	b	b	a				a		b
	児童生徒は、主体的または計画的に学習に取り組めたか	b	b	a	c					b
	魅力的な学習活動であり、児童生徒が最後までやろうとする意欲を持てたか									
県教委	児童生徒が自発的、計画的に学習に取り組むための支援ができたか		b	a						b
	児童生徒が学ぶことが楽しいと思える教育活動を支援できたか	b								b
	児童生徒が学ぼうと意欲的になるための教育活動を支援できたか			a		a	b			a
	児童生徒が将来の夢や希望が持てる教育活動であったか							a		a

※a：十分満足できる b：概ね満足できる c：不十分である

学力向上推進会議による第三者評価

*学識経験者、学校教育関係者、保護者代表等による評価

評価の 観 点	学力向上推進会議における意見
ア	<p>「千葉県学習サポーター」は、児童生徒が主体的に考えられるようサポートしたり、児童生徒のつまずきに対して一人一人に応じた方法で細やかな支援を行ったりしており、その存在は大きい。児童生徒に「学び」の喜びを気付かせ、学力の底上げを図る重要な役割を担うとともに、若手教員の指導力向上にも寄与していると思われるので、今後は派遣人数や勤務時間を増やすなど、更なる事業拡大を望む。</p> <p>「小学校専科非常勤講師」の配置では、図画工作の授業を参観した際、専科指導員が描写方法や全体のバランス等を指導し、どの児童も楽しそうに豊かな発想で生き生きとした絵を描いていた。また、その指導方法は、教員にとって学べる場面も多く、魅力的な学習活動であると感じた。今後は、授業で使用する教材費など補助することも考えて予算化できるとよい。</p>
イ	<p>「科学の甲子園」で取り組む生徒たちの姿に真の学びを感じた。事業評価はもう少し高くても良いのではないか。今後は、マスコミ等を利用するなどして生徒や保護者、社会に周知することで、「科学の甲子園」に参加する生徒の意欲もさらに向上することが期待できる。また、「SSH」の活用は、生徒一人一人のテーマに対し、大学教授や科学施設関係者など複数の指導者が関わり、探究的な学習が進められていて充実している。校外、海外での実習など科学に対する興味関心を高める様々な取組が広がることを期待する。</p> <p>「ICTを活用した学習指導の充実」では、研修を通して、タブレット等を使用し授業を展開する工夫やさらなる充実を目指す意識が見られ、活用が進んでいる。協働的に学習したり、多様な価値観に触れ見識を深めたりするなど、ICTの効果的な活用が期待されるので、今後は指定校を増やしたり、各学校に広く実践事例を周知したりしていくことが望まれる。</p>
<p>【Action 1について】</p> <p>子どもたちが自発的、主体的に学ぶための取組をしているところが目に見えてわかり非常に良い。「千葉県学習サポーター派遣事業」は非常に有効な取組だが、限られた予算内で効果的な運営を行うには「選択と集中」、そして「効果検証」が必要である。また、ICT関連の事業など発展途上の側面もあるので、今後は、さらに内容をブラッシュアップさせ、効果的に成果が出るよう進めてほしい。</p> <p>「科学の甲子園」以外は、ほぼすべての事業において妥当な評価である。今後は、各校の声を聞き、課題・問題点を精査しながら進め、事業が継続していくことを期待する。特に人材配置の事業は児童生徒への直接的な支援につながり、効果も高いと考えられるため、将来的には全ての学校、全ての児童生徒に支援できる事業となることを願う。</p>	

Action2 目指す姿

「子供と社会の変化を捉え、自律的に学ぶ姿勢を持ち、授業を工夫する教員」

【評価項目】教員の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

【評価の観点】ウ 「『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム」を意識した取組につながっているか

エ 授業改善を意識した研究・研修・分析ができているか

事業担当者による自己評価

ウ 「『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム」を意識した取組につながっているか

		8-1	8-2	8-3	9-1	視点ごとの評価
		活める「『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム」の促進	「学力向上交流会」の開催	定（ちばっ子の学び変革）研究指（検証協力校）	「授業づくりコーディネーター」の認定	
教職員	教職員は、児童生徒の学ぶ意欲を引き出すために、教材を工夫したか	b				b
	教職員は、授業改善に向けて「実践モデルプログラム」を意識することができたか	b	a		b	b
	教職員は、授業改善に向けて「実践モデルプログラム」を活用したか	b		b	b	b

※a：十分満足できる b：概ね満足できる c：不十分である

エ 授業改善を意識した研究・研修・分析ができているか

		7-1	8-1	8-2	8-3	9-1	9-2	10-1	10-2	10-3	11-1	11-2	11-3	視点ごとの評価
		「全国学力・学習状況調査」のデータ及び分析ツールの活用促進	「『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム」の活用促進	「学力向上交流会」の開催	「ちばっ子の学び変革」研究指定（検証協力校）	「授業づくりコーディネーター」の認定	U10学びの未来づくり	優良・優秀学校図書館の認定	学校図書館活用に関する研修の実施（新任校長研修）	学校図書館活用に関する研修の実施（公立図書館連携研修）	研修履歴システム「Asttra（アストラ）」の運用	授業力を高めるための理論的・実践的な研修	「校内研究モデルプラン」、eラーニングによる効果的な校内研修等の推進	
教職員	教職員は、授業改善に資する学校図書館の環境整備を行ったか							b	b	a				b
	教職員は、授業改善に向けて前向きに協議や研修を行ったか	a		a		b					b			b
	教職員は、授業改善の具体的な方法を学ぶことができたか			a		b						b	b	b
	教職員は、授業改善の手段として学校図書館を活用したか							b	b	a				b
	教職員は、授業改善に向けて情報交換を十分に行えたか			a		b	c					a	b	b
	教職員は、授業改善の効果を実感することができたか	b		a	b	b	c					b		b
	教職員は、進んで授業改善を行おうと意識することができたか	b	a	a	b	b	c	b				b	b	b

※a：十分満足できる b：概ね満足できる c：不十分である

学力向上推進会議による第三者評価

*学識経験者、学校教育関係者、保護者代表等による評価

評価の 観 点	学力向上推進会議における意見
ウ	<p>「学力向上交流会」は、学校間での情報交換がしやすい環境が作られ充実しており、評価は妥当である。今後、開催の機会や時間を増やしたり、オンライン開催の特性を生かし、より多くの職員が視聴できるような開催方法を検討したりしてはどうか。</p> <p>また、検証協力校による『「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラム』を意識した具体的な実践報告に対し、参加した他校の教員の関心は非常に高く、有益な機会である。今後は、協力校の事例が広く認知され、活用されることや、検証協力校でない学校であっても校内研究等を発表できる機会となる事を期待する。</p>
エ	<p>「学力向上交流会」のブレイクアウトルームは、参加者が非常に熱心に質問や議論をしており、授業改善の意識を高める上で大変有効である。また、「全国学力・学習状況調査のデータ及び分析ツール」の活用が図られ、定着してきている。</p> <p>「U10学びの未来づくり」に関しては、若手の優秀な教員を巻き込むなど、ICT活用など他の事業に紐づける形で実施されると良いのではないかと考えられる。</p> <p>「研修体系に基づく研修の充実事業」の事業効果は高いと考えられる。今後は、Asttra の資質・能力の蓄積グラフをさらに活用し、研修への意欲向上につなげてほしい。また、「授業力を高めるための理論的・実践的な研修」の事業評価は、「より具体的な、速効的な、実践的な方法を知りたい」という研修生の意欲の表れと捉え、今後の研修の設定に生かしてほしい。</p>
<p>【Action 2 について】</p> <p>各学校で積極的な活用がなされるような情報提供、広報活動をしていくことが大切である。教職員がアプローチしやすい環境づくりだったり、内容だったりすることが求められている。</p> <p>各事業の取組における「評価の観点」、「評価の視点」及び「評価の理由」は適切であり、事業評価は妥当である。「U10学びの未来づくり」事業は、Action 2 で目指す姿の具現化につながるものとして期待が持てる。</p> <p>教員研修に関する施策については、千葉県千葉市教員等育成協議会で定められた育成指標に沿った形で、各研修がどの力を伸ばしていくためのものかを、研修の講師も受講者もしっかりと意識した上で実施されることが望ましい。</p>	

【総合評価】ちばっ子「学力向上」総合プランの全体評価

(学力向上推進会議による総合プランの全体評価)

- 【評価の観点】
- I 各アクション、各事業の評価は適切か
 - II 前年度の評価等を活かした事業内容改善の成果は上がっているか
 - III ちばっ子「学力向上」総合プランにより、児童生徒の学ぶ意欲は向上しているか
 - IV ちばっ子「学力向上」総合プランにより、教員は授業改善を図っているか

学力向上推進会議による第三者評価 *学識経験者、学校教育関係者、保護者代表等による評価

評価の観点	学力向上推進会議からの意見
I	各アクション及び事業の評価は妥当である。c評価の事業についても、今後に期待が持てる内容や成果を示している。「科学の甲子園・科学の甲子園ジュニア」については、a評価でもよいのではないかという意見があった。
II	令和3年度の評価を生かして事業改善が適切に行われている。複数年度で捉えても、改善の成果が上がっている事業が見られる（「ICTの活用」、「『全国学力・学習状況調査』のデータ及び分析ツールの活用促進」など）。
III	「千葉県学習サポーター」は、児童生徒の意欲の向上や理解の促進だけでなく、児童生徒が自ら考えるという主体性のサポートにもつながっている。「科学の甲子園・科学の甲子園ジュニア」は事業自体に意欲向上の効果がある。
IV	「千葉県学習サポーター」や「小学校専科非常勤講師」など人的配置に関する事業は、教員の負担軽減や指導力向上につながっており、人材活用という社会的な意味でも価値が高い。「学力向上交流会」は教師の高い関心と意欲が見られた。

【ちばっ子「学力向上」総合プランについて】

ちばっ子「学力向上」総合プランにおけるアクション相互の関係、事業同士の影響、評価の視点等が明確になった。令和4年度はさらにそれぞれの事業内容の改善が図られていることが分かった。今後は事業効果をより確実に測定し、その成果を広く知らしめていくことが重要と思われる（例：アンケート調査対象の選定の工夫、事業を行っている学校とそうでない学校との比較、事例サンプルの抽出・収集など）。